



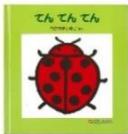
絵本は身近な大人が読み聞かせることで、はじめて小さな子どもたちの心を動かします。さまざまな絵本と出会い、感受性や知性、親子の信頼関係を深めていくための第一歩として、「はじめての絵本選び」のポイントをご紹介します。

ポイント① リズム感がよく、音を「聞いて」楽しめる

聴覚はお母さんのお腹にいるときから発達しているので、はじめての絵本選びに迷った時は、まずは「聞いて」楽しめる絵本がおすすめです。赤ちゃんは、リズム感が良くておもしろい響きを喜びます。

例えば・・・

- 動物の鳴き声⇒ワンワン、ニャーニャー、モーモーなど
- 自然や物の音⇒ザーザー、プープー、コロコロなど
- 気持ちを表す音⇒ワクワク、ウキウキ、ルンルンなど



まだ言葉の理解がむずかしい赤ちゃんには、聞きとりやすくイメージしやすい、擬音語・擬態語(オノマトペ)が多い絵本がおすすめです。

ポイント② 色や形がおもしろくて、「見て」楽しめる

赤ちゃんは、3～5 ヶ月頃になると少しずつものや色を認識できるようになってきます。色がくっきりとしたカラフルなもの、顔やおっぱいの形に似ている「まる」の形をじっと見ると言われています。



ポイント③ よく知っている身近なものが描かれていて、「イメージして」楽しめる

自分が知っているもの、生活の中で使うものが描かれている絵本は、見たことのあるものと関連づけてイメージし、「もの」の認識に役立ちます。絵本を通して、楽しみながら「もの」の名前を知っていくことができればいいですね。



ポイント④ 「ふれあって」楽しめる

複雑なストーリーは理解できなくても、家族のふれあいの時間が子どもの豊かな感性を育み、親子の信頼を深めていきます。



【この時期の読み聞かせのポイント】

「0.1.2 歳 特集 ぐんぐん育つ、読み聞かせ」よ

子どものペースに合わせてめくる

何ページもまとめてめくったり、なめたり触ったりするのは、その子なりに絵本に親しもうとしている姿です。



言葉をシャワーのように、たっぷり浴びせる

絵本に書かれた文字だけでなく、絵から読み取れることを「ねこさん、泣いてるね」「お花、きれいだね」など言葉にして、シャワーのように言葉を浴びせましょう。

子どもの働きかけを見逃さない

この時期の子どもは、感動や気づきを、指差しや表情で教えてくれます。そんな心の声をくみ取ったら、1つ1つ丁寧に言葉をかけてこたえましょう。



子育てワンポイント 1歳からの絵本選び

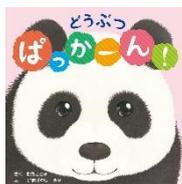


主人公に自分を重ねるドキドキ。ものに名前があることを知るワクワク。大好きな人の声でお話を聞く、喜びや安心感。絵本はイメージする力や他者への意識など、心の育ちに大きく関わります。年齢に合わせて絵本を選ぶのならどんなものが良いか、ポイントをご紹介します。

【1歳】

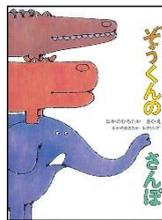
知っているものや動物がたくさん出てくる

1歳を過ぎると、言葉や絵から自分の知っていることを関連づけてイメージできるようになってきます。身近なものが出てくる絵本で、さらに興味を引き出しましょう。



わかりやすいストーリーがある

1場面完結ではなく、1冊を通してひとつながりの、簡単なストーリーがあるものを選びましょう。絵本を最後まで順番にめくる楽しさを感じることができます。



共感できる主人公がいる

自我が芽生え、「自分」というものを強く意識して行動するようになってきます。絵本の中に共感できる主人公を見つけて、喜ぶようになります。



【2・3歳】

絵の中に、発見や仕掛けが隠れている

この頃の子どもたちは、発見したことを誰かに教えたい気持ちでいっぱいです。絵の中から何かを探し出すものや、複雑な絵柄のものが楽しめるようになってきます。



ストーリーに起承転結がある

イメージする力が豊かになり、より、ストーリー性のあるものを楽しめるようになってきます。もちろん、これまで親しんできた絵本も楽しめますし、凶鑑のようなものを好む子もいます。子どもの旺盛な好奇心に答えていきましょう。



生活習慣を学ぶことができる

自我が強くなり、何でも自分でやりたがるようになってきます。食事や歯磨き、トイレ、着替えなどの生活習慣を、絵本を通して楽しく学びながら、親子で前向きに取り組んでいきたいですね。



【4・5歳〜】

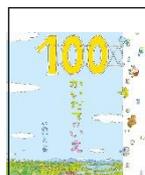
新しい知識を得られる

自然や春夏秋冬、伝統文化や行事など、絵本を通して触れることで、興味を持つきっかけの1つになるでしょう。また、次第に自分の興味があるものについて、深く知りたいと思いはじめ始める時期でもあります。興味がある分野の凶鑑もおすすめです。



ストーリー性があり、イラストから想像力をかきたてられる

知識が豊富になり、理解力や想像力が高まります。自分の生活に近いものや、体験した物事が題材の感情移入できるような絵本や、非日常のストーリーも、想像力を働かせてより楽しめるようになってきます。



他人の感情について学ぶことができる

この頃になると、自分のことだけでなく、他人の気持ちを理解しようという心が成長します。相手が今どんな気持ちか表情から読み取れるようになってくるので、思いやりや仲直りがテーマの絵本もおすすめです。



子どもが「絵本を読んで」というのは「一緒にいて」ということです。子どもは、一緒にいたいんです。抱っこしたり体を寄せ合って一緒に読むと、子どもは本当に喜びます。

「絵本は心のへその緒」

